プロフィール

●十束尚宏（指揮）

大学３年在学中の1982年、第17回民音指揮コンクールで第１位に入賞。

1983年、民音入賞記念コンサートとして、九州交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、新星日本交響楽団を指揮。

７～８月には、ボストン交響楽団主催のタングルウッド音楽祭にバークシャー・ミュージックセンターのフェローシップ・コンダクターとして招かれ、クーセヴィツキー指揮大賞を受賞する。同賞の受賞は日本人としては1960年の小澤征爾に次いで、２人目という快挙であった。

1960年東京に生まれる。５歳よりピアノを高柳朗子氏に、15歳より指揮を高階正光氏に師事。桐朋学園大学音楽部指揮科に入学。指揮を故森正、小澤征爾、秋山和慶、黒岩英臣、尾高忠明の各氏に師事。卒業後、同大学研究科に入学しさらに１年間研讃を積む。

1984年、ボストン交響楽団に副指揮者として招かれ研讃を積み、新日本フィルハーモニー交響楽団第117回定期演奏会でデビュー。同年５月より１年間ベルリンに留学。留学期間中、再びタングルウッドにフェローシップ・コンダクターとして招かれる。２回のタングルウッドを通じ、レナード・バーンスタイン、アンドレ・プレヴィン、クルト・マズア、レナード・スラットキン、ジョセフ・シルヴァースタイン等世界の第一級の指揮者に師事した。

1985年「第11回若い芽のコンサート」にてＮＨＫ交響楽団を指揮。

その後もＮ響、東京都交響楽団、名古屋フィル、東京フィル、日本フィル等を指揮。1986年３月には民音の第199回定期演奏会にて日本フィルを指揮。４月には、ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会を指揮してヨーロッパ・デビューを飾る。

1987年２月には再びストックホルム・フィルに招待された。６月、ロッシーニの「シンデレラ」を指揮してオペラ・デビュー。７月、神奈川フィル第72回定期演奏会を指揮。

1988年は、九州交響楽団（定期）、大阪フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団（定期）、東京交響楽団、札幌交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、ゾーリンゲン市立管弦楽団を次々と指揮、好評を博した。

1989年４月にはＮＨＫ交響楽団の定期演奏会に出演。非常に大きな注目を集める。

1989年４月より群馬交響楽団の正指揮者に就任。

1992年９月より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の常任指揮者となる。

●漆原啓子（ヴァイオリン）

３歳よりピアノ、６歳よりヴァイオリンを始める。鷲見三郎、海野義雄各氏に師事。

1978年、日本音楽コンクール第３位入賞。

1979年、東京芸術大学付属高校入学。海外派遣コンクールで松下賞受賞。

1980年、デビューリサイタル（毎日新聞社主催）

1981年、ポーランドのヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで、日本人として初めての優勝。あわせて６つの副賞も獲得。

1982年、東京芸術大学入学。本格的な演奏活動を開始する。

1983年、「若い芽のコンサート」でＮＨＫ交響楽団と共演。

1984年、11月より、ピアノの迫昭嘉とデュオを組み活動を開始。

1985年、迫昭嘉、上村昇（チェロ）とピアノトリオの活動を始める。５月、チェコの「プラハの春」国際音楽祭に招かれ、スロヴァキアフィルと共演するとともにリサイタルを行う。

1986年、フォンテックレコードより、レコードデビュー。また、前年４月に結成したハレー・ストリングカルテットが第21回民音コンクール室内楽で優勝並びに斉藤秀雄賞を受賞する。モスクワ・ヴィルトーゾ室内合奏団、日本公演のソリストを務める。

1987年、10月にドイツ民主共和国への公演旅行を行う。

1988年、ハンガリー国立交響楽団、日本公演のソリストとして好評を博す。

1991年、５月の日本フィルハーモニー交響楽団のヨーロッパ公演のソリストに抜擢され大好評を博す。

1994年には、サンクトペテルブルク交響楽団日本公演のソリストとして全国主要都市で共演する。